

総評

近年、温暖化等に伴う様々な環境・健康問題や、新たな環境・健康問題が懸念されており、本県においても、安全安心な県民生活のために、様々な取り組みがなされている。今年度の研究評価課題は、これらに対応したホットな課題であった。

事前評価 1 件については、ビッグデータといわれている環境データを解析して温暖化影響を把握するという、これまで取り組んで来なかったチャレンジなテーマであり、今後指摘事項を参考にして、研究を進めていただきたい。中間評価 2 件は、食品中の自然毒および地下水ひ素汚染を扱ったものであり、着実に成果が得られていると評価できる。いずれも人の健康に直結する課題であり、今後も、他県や大学等の研究者と情報交換しながら、より高いレベルを目指して研究を継続していただきたい。事後評価 2 件については、今後健康影響が懸念される薬剤耐性菌と蚊媒介感染症について取り組んだものであり、大きな成果が得られていることから、今後本県の施策に反映され、安全安心な県民生活につながることを期待したい。

池本 良子